

尾島町 荒木 計央 記

『田舎暮らし』

シルバープランで毎日が日曜日どうするか…・結論は農業なら毎日できる良い趣味と捕らえて定年前から雑誌「定年帰農」を購入研究しましたが、やはり群馬県人、当地宮城村を選びましたが、単独で探す事に限界があり、先輩に依頼やっと当地宮城村市之関に住まい、畠3反をお借りすることが出来ました。群馬フラワーパークから前橋に向う西2kmで、周囲は豚小屋で臭いと鳴き声がありますが、夜は安中・前橋・高崎・伊勢崎から太田・薮塚までの夜景がすばらしい。

畠は火山灰土で軽くすぐ埃が立ちますが作業は楽です。トラックターで耕運時は南に向うと前橋・伊勢崎を見て、北を向くと赤城山頂上群の四季の色変わりを見ながらの作業は壮大で疲れも癒され落ち着くものです。

生活は会社勤務時のリズムを崩さぬために朝は8時に畠に行き定時は夏19時30分、冬5時前後と、休日は友人が訪れた時と決め、来訪者大歓迎に徹しています。

畠は一部桑畠でしたので先輩の皆さん応援で根を抜きましたが、篠や雑草の処理が大変でした。開墾者魂とはこんなものか?などと思いながら体重の減少、腹のへこみに歓迎しました。

それからはきうり・茄子等32種類の種を蒔き芽が出る、草がはえる、実が成るこのプロセスに難しさを知り、疲れて帰って明日は何をしようかプランを練るのが楽しく一人住まいの寂しさは半年過ぎても湧いてきません。畠には老人の方々が毎日のように来てくれてお茶を飲みながら種々教えてくれたり、お昼に手打ちうどんを食べに来いとか、からみもちができたから食べに来いとか誘ってくれます、田舎はいいですね。

これからは社会の高齢化が進み、定年となった人々が、年金だけで生活するとなれば、この社会は破綻するでしょう。高齢化社会にあって、自分の趣味と生きがいを持ち、収入は少なくとも、自分の健康に合わせて働くことを実践していく仲間が今後益々増えればいいなと思います。赤城山、渋川方面お出かけの節は、是非宮城村にお立ち寄り下さい。



秋の収穫が待ち遠しい満開のそば畠（9月26日本人撮影）